

【今日の説教から】

クリスマスの礼拝の一つ一つの出来事が思い出されます。

「これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう。」

夜半に現れた羊飼いたちに告げられた良い知らせと光、そして天の賛美はどれほど素晴らしいものだったでしょうか。

神は光です。神はあわれみであり、愛であり、神様は赦しに富んでおられます。

神様は私たちが一人も滅びることを望まず、永遠に生きることを望まれます。「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える…あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである」と語られます。

神様は私たちを光の子とされ、「あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている」(ペリピ 2:15)

とあるように、主の赦しと愛の光によって弱さを乗り越えて輝く者として下さいました。暗闇を愛することなく、自分のことを追求するのではなくて神の国と義と真理とを追求し、光に進み出て、神様の御業を拝したいのです。「真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが明らかにされるため」にです。

皆様おはようございます。クリスマスの礼拝の時を過ごし、今日は2023年の最後の礼拝の時を過ごしております。

クリスマスの御言葉が思い起こされます。暗闇に光が照った。夜番の羊飼いたちをとの囲む暗闇は消え去り、そこには良き知らせと神様への賛美が満ちました。

ルカ 1:78 これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、

1:79 暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう」。

2:10 御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

2:11 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

2:12 あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。

2:13 するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして

言った、

2:14 「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

今日の御言葉は、その光である神様から生まれた者たち、すなわち神様によって赦しと義のうちに生み出されたクリスチャンたちについて語られているものです。

ヨハネ 1:9 すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。

1:10 彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。

1:11 彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。

1:12 しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

1:13 それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。

1:14 そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であつて、めぐみとまこととに満ちていた。

今日の聖書、ヨハネ 3 章 1 6 節は、聖書の中の聖書と呼ばれる聖書の言葉です。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

3:18 彼を信じる者は、さばかれぬ。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

3:19 そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあつてなされたということが、明らかにされるためである。

神様は、私たちが一人として滅びることを望んではおられません。そして決して滅びることがないように、御子イエス・キリストの犠牲をも辞さなかったのです。この御子による贖いを信じるものは一人として滅びることなく、永遠の命を持ちます。何という例外無き、恐る

べき力強い救いなのでしょう。神様がそのひとり子をもって世を贖うというこの救いは、最終手段であって、この上に行く救いの手段はありません。これよりも優れた救いの手段はなく、この救いは完全なるものです。

この救いは、人による手段によるものではなくて、神様から来る完全な救いです。この救いに与かるために必要とされる条件は何もありません。ただ信じて受け取るだけでいいのです。

光が世にやってきて、私たちに救いの光が差し上ってきて、私たちはただその光の中に出て行けばいいのです。

そんなに簡単な救いでいいのでしょうか。救われるために人がしなければならないということが全くないということでしょうか。

そのような考え方は、私たちの古い考え方です。教えを守るとか、捧げものを捧げるとか、そういう私たちの側からのアクションによって罪の救いがなされるという考えの中に人はどれだけ長い間過ごしてきたのでしょうか。神様にお詫びをするために、その関係を取り戻すためにどれだけ多くの動物の命が犠牲になり、多くの血が流されたのでしょうか。しかし人の罪深さは果たして変わったのでしょうか。人は昔に比べて良き存在になったのでしょうか。いえ、そうではありません。

ローマ 7:15 わたしは自分のしていることが、わからない。なぜなら、わたしは自分の欲する事は行わず、かえって自分の憎む事をしているからである。

7:16 もし、自分の欲しない事をしているとすれば、わたしは律法が良いものであることを承認していることになる。

7:17 そこで、この事をしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。

7:18 わたしの内に、すなわち、わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がないからである。

7:19 すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行っている。

7:20 もし、欲しないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。

7:21 そこで、善をしようと欲しているわたしに、悪がはいり込んでいるという法則があるのを見る。

7:22 すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいるが、

7:23 わたしの肢体には別の律法があって、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。

7:24 わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わた

しを救ってくれるだろうか。

7:25 わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな。このようにして、わたし自身は、心では神の律法に仕えているが、肉では罪の律法に仕えているのである。

8:1 こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。

8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。

8:4 これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。

8:5 なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを思うからである。

8:6 肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。

8:7 なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。

8:8 また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。

8:9 しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。

8:10 もし、キリストがあなたがたの内におられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに生きているのである。

8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。

「肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった」のです。私たちは唯々降参して、神様の憐れみに寄りすがり、罪のあるがまま、神様の赦しと贖いの光の中に進み出ればよい、そうすれば主イエス様の贖いによって赦されるというのが新しい契約です。

2 コリント 5:13 もしわたしたちが、気が狂っているのなら、それは神のためであり、気が確かであるのなら、それはあなたがたのためである。

5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこ

う考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。

5:15 そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。

5:16 それだから、わたしたちは今後、だれをも肉によって知ることはいけません。かつてはキリストを肉によって知っていたとしても、今はもうそのような知り方をいけません。

5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

5:18 しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。

5:19 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。

5:20 神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。

5:21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

そうです、私たちはキリストによって、全く新しくされているのです。それは自分で律法を守って義とされるという人にとっては不可能であった教えから、イエス様にある救いを感謝して受け取るという信仰の変革なのです。

エペソ 5:1 こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。

5:2 また愛のうちに歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。

5:3 また、不品行とさまざまな汚れや貪欲などを、聖徒にふさわしく、あなたがたの間では、口にすることさえしてはならない。

5:4 また、卑しい言葉と愚かな話やみだらな冗談を避けなさい。これらは、よろしくない事である。それよりは、むしろ感謝をささげなさい。

5:5 あなたがたは、よく知っておかねばならない。すべて不品行な者、汚れたことをする者、貪欲な者、すなわち、偶像を礼拝する者は、キリストと神との国をつぐことができない。

5:6 あなたがたは、だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけません。これらのことから、神の怒りは不従順の子らに下るのである。

5:7 だから、彼らの仲間になってはいけません。

5:8 あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩きなさい――

5:9 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである――

5:10 主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。

5:11 実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。

5:12 彼らが隠れて行っていることは、口にするだけでも恥ずかしい事である。

5:13 しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。

5:14 明らかにされたものは皆、光となるのである。だから、こう書いてある、／「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう」。

5:15 そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようではなく、賢い者のように歩き、

5:16 今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。

5:17 だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。

5:18 酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、

5:19 詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

5:20 そしてすべてのことにつき、いつも、わたしたちの主イエス・キリストの御名によって、父なる神に感謝し、

5:21 キリストに対する恐れの心をもって、互に仕え合うべきである。

そして私たちは、光に照らされて光の子として生きていくのです。

ヨハネ 3:19 そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

1 ペテロ 4:1 このように、キリストは肉において苦しまれたのであるから、あなたがたも同じ覚悟で心の武装をしなさい。肉において苦しんだ人は、それによって罪からのがれたのである。

4:2 それは、肉における残りの生涯を、もはや人間の欲情によらず、神の御旨によって過ごすためである。

4:3 過ぎ去った時代には、あなたがたは、異邦人の好みにまかせて、好色、欲情、酔酒、

宴楽、暴飲、気ままな偶像礼拝などにふけてきたが、もうそれで十分であろう。

4:4 今はあなたがたが、そうした度を過ぎた乱行に加わらないので、彼らは驚きあやしみ、かつ、ののしっている。

4:5 彼らは、やがて生ける者と死ねる者とをさばくかたに、申し開きをしなくてはならない。

4:6 死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。

4:7 万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。

4:8 何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。

4:9 不平を言わずに、互にもてなし合いなさい。

4:10 あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。

いまだに自分の心に仕え、自分本位に生きる人生。もうそれば十分だと聖書は語りかけます。もはや今は神のみ旨に過ごすために、愛に生きるために、神様は私たちを新しく創造してくださいました。

ピリピ 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神

に帰するためである。

2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。

2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。

2:14 すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。

2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したこともむだではなかったと誇ることができる。

2:17 そして、たとえ、あなたがたの信仰の供え物をささげる祭壇に、わたしの血をそそぐことがあっても、わたしは喜ぼう。あなたがた一同と共に喜ぼう。

2:18 同じように、あなたがたも喜びなさい。わたしと共に喜びなさい。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

私たちは罪赦され、新しくされ、もはや自分のためにではなく、神様のために生きるのです。

2 コリント 5:13 もしわたしたちが、気が狂っているのなら、それは神のためであり、気が確かであるのなら、それはあなたがたのためである。

5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。

5:15 そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

しかしそのような生き方は、私たちの力によってではなくて、神様によって与えられるものなのです。私たちが光に照らされて生きるということは、すべて神様の恵みです。私たちは罪を犯し続ける存在ですが、しかし私たちは光に照らされています。私たちがもしも自分の

不義を神様の御前に打ち明ければ、それは光に包まれ、赦されます。しかし私たちには罪がないと言って罪を隠すのであれば、その誤りは光の中に出て、赦されることはありません。私たちは子どものように素直になって、悔い改めの内に与えられる主の赦しを頂き、自らの思いを主のみ旨に入れ替えて頂き、聖霊に導かれて生きようではありませんか。

1 ヨハネ 1:7 しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。

1:8 もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにはない。

1:9 もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

1:10 もし、罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであって、神の言はわたしたちのうちにはない。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。今年一年間の神様の恵みとお支えとお励ましに感謝いたします。あなたの大きな赦しの愛と、すべて良きものを満たして下さいます祝福に感謝いたします。新たな年もあなたのお守りとお導きをよろしくお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン